

科目名		設計製図A			
担当教員	熊谷 貴子		実務授業の有無	○	
対象学科	建築士学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築空間の表現・伝達に必須である製図の知識・技術を、学ぶことで図面の必要性を理解し、簡単な図面が描け、記号など、作成する実習 1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 製図の基礎を中心に見方、描き方を解説・演習する。 3. 条件に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 4. 最終的には、木造住宅の製図、炉計図課題を作成し、評価、解説を行う				
学習目標 (到達目標)	建築空間の表現・伝達に必須である製図の知識・技術を、実習を通じて習得する 木造住宅の各種図面の作図手順と、木造軸組工法のしくみを理解する また、建築士2級の技術試験範囲にあたる内容のため、合格点に達する習熟度を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①初学者の建築講座 建築製図(市ヶ谷出版) ・製図用具一式				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	製図の基礎 ①各種製図用具の名称、役割、使い方。 ②平行定規の扱い方。 ③図面の種類や図面の意味 ④線の引き方、線の練習。	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～④の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
2	建築製図と用具 ①建築製図の役割。 ②図面の種類。 ③用具の扱い方	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～④の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
3	製図の基本事項 ①図面に用いる線・文字・記号・縮尺	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～④の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
4	作図トレーニング	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～④の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
5	課題演習 指定条件の課題作成	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、今まで学習した基本手順に基づき期限内で課題を作成。 ①～④の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
6	課題提出	提出された課題の講評と解説			
7	木造住宅の製図 ・配置図・平面図の作図 ・断面図の作図 ・立面図の作図	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～④の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
11	課題提出	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、今まで学習した基本手順に基づき期限内で課題を作成。 ①～④の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
12	・炉計図の理解 ①木造軸組工法の構成と部材名	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～④の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
13	・炉計図の作図 作図手順と、作図演習	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～④の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
14	課題提出	課題を完成させ、期限内に提出する			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
提出課題・授業態度を総合して評価。 課題提出70% 授業態度30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		建築製図の基礎を、作図演習を通じて習得します。建築士試験に対応できる知識と技術を身につけるため、基本を固め、演習を繰り返すことでついでスキルを上げていく。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う。			

実務経験教員の経歴 一級建築士として建築現場監督業務を約10年携わる

科目名		設計製図A			
担当教員	熊谷 貴子		実務授業の有無	○	
対象学科	建築士学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築空間の表現・伝達に必須である製図の知識・技術を、学ぶことで図面の必要性を理解し、簡単な図面が描け、記号など、作成する実習 1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 製図の基礎を中心に見方、描き方を解説・演習する。 3. 条件に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 4. 最終的には、木造住宅の製図、炉計図課題を作成し、評価、解説を行う 5. 建築設計、エスキースの習得、製図力の強化				
学習目標 (到達目標)	建築空間の表現・伝達に必須である製図の知識・技術を、実習を通じて習得する 木造住宅の各種図面の作図手順と、木造軸組工法のしくみを理解する また、建築士2級の技術試験範囲にあたる内容のため、合格点に達する習熟度を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①初学者の建築講座 建築製図(市ヶ谷出版) ・製図用具一式				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	専用住宅(木造2階建て) ①前期住宅計画演習課題をベースにエスキースの訂正・完成 ②前期の製図技術に就いた平面図、断面図、立面図 *A2ケント紙にレイアウトして提出	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～④の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
2	透視図法 ①透視図の種類や特徴 ②参考資料図をもとに2点の透視図と作図方法	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～④の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
3	木造専用住宅設計図のトレース ①参考資料図の木造の製図 ②木構造の詳細 *A2ケント紙にて提出	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～④の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
提出課題・授業態度を総合して評価。 課題提出70% 授業態度30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		建築製図の基礎を、作図演習を通じて習得します。建築士試験に対応できる知識と技術を身につけましょう。 建築法規は、建築全てにおいて関係しており「法」を知ること、他の科目と関連性をもって学ぶ必要性がある。法規の基本を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかり理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い箇所については、十分な解説を行う			

実務経験教員の経歴 設計業務、インテリアコーディネーターとして8年実務に携わる

科目名		設計製図B			
担当教員	熊谷 貴子		実務授業の有無	○	
対象学科	建築士学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築空間の表現・伝達に必須である製図の知識・技術を、学ぶことで図面の必要性を理解し、簡単な図面が描け、記号など、作成する実習 1. 座学→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 製図の基礎を中心に見方、描き方を解説・演習する。 3. 条件に則した設備設計の進め方の基本を理解する。 4. 最終的には、RC造の製図、炉計図課題を作成し、評価、解説を行う 5. 建築設計、エスキースの習得、製図力の強化				
学習目標 (到達目標)	建築空間の表現・伝達に必須である製図の知識・技術を、実習を通じて習得する RC造構造、設計条件を理解する また、建築士2級の技術試験範囲にあたる内容のため、合格点に達する習熟度を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	初学者の建築講座 建築製図(市ヶ谷出版) ・製図用具一式				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	RC造の基礎 ①RC造について ・種類とその構造の特徴 ②平面図の作図 ③断面図の作図 ④立面図の作図 ⑤詳細図の作図 *課題提出1	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～⑤の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
2	RC造建築物の設計 ①課題条件の読み取り ・設計課題の設計条件・敷地環境・要求室を読み取り ②エスキース ③エスキースチェック ④平面図の作図 ⑤断面図の作図 ⑥立面図の作図 *課題提出1	方法：教科書、プリント等の教材を使って説明し、作図の演習。 ①～⑤の項目を理解し適正に作成、作図できる。 準備学習：教科書、プリントに示されている練習課題の予習と練習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
提出課題・授業態度を総合して評価。 課題提出1 30% 課題提出2 30% 授業態度40% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		建築製図の基礎を、作図演習を通じて習得します。建築士試験に対応できる知識と技術を身につけましょう。 建築法規は、建築全てにおいて関係しており「法」を知ること、他の科目と関連性をもって学ぶ必要性がある。法規の基本を理解した上で、設計への見聞を広げる。また定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかり理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い箇所については、十分な解説を行う			

実務経験教員の経歴 設計業務、インテリアコーディネーターとして8年実務に携わる